

## 実質化された人・農地プラン

〔注：本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。〕

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
いわき市	赤沼地区	令和2年9月	令和2年9月

## 1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	100.9ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	58.9ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	22.1ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	11.6ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	5.2ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	40.4ha
(備考)	

注1：③の「70才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2：④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3：アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4：プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

## 2 対象地区の課題

地区では用水路の配置により、水源の確保に時間がかかることや、畑が数か所に点在していること等から、効率的な生産ができていない。また、地区で取り組んでいる草刈等の共同活動について、高齢化による負担が大きいことから、今後は地区内外から新たな後継者の位置づけおよび育成を行う必要がある。

注：「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

## 3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

・地元出身の農家を中心に農地を集積し、効率的に農作物の生産を行う。  
 ・現状、露地栽培で野菜を生産している農家が多いため、施設園芸農業へと誘導し、安定した農作物の生産と収益性の向上を図る。  
 ・複数の農家に農地が分散しているため、将来的に少数の農家に農地を集約化する。  
 ・地区には兼業農家と専業農家が存在するため、それぞれが営農可能な引受面積について担い手と地権者間で調整を行う。

注1：中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2：「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。